2018年度

センター試験

過去問研究

地理 地域調査

地理A第5問／地理B第6問

2018年1月実施分収載

現地の写真もカラーで掲載

外に出てこそ地理が分かる。

実地調査に基づく徹底解説!

浜床丹出版(仮)

解説

越前大野（福井県大野市）城主であった金森長近は，1585（天正 13）年秀吉の命を受けて，飛騨のほとんどを支配下に治めたばかりの三木氏を攻略し，平定した。飛騨へ入国した長近は，当初鍋山城を居城としたが，戦略的条件が悪いため，天神山（古城）[16]に高山城を築城することにした。築城は 1588（天正 16）年から始まり[17]，1603（慶長５）年までに本丸，二之丸，三之丸が築かれた。

また城と同時に城下町の造成工事も行った。この町は金森氏により商業経済を重視した城下町として形成されたところに特徴がある。町人地は武家地の 1.2 倍と広く，全国の城下町の平均が武家地７割，町人地３割であることから考えても，高山の町人地は広さに特色がある。また城下町内へは東西南北の街道が引き込まれ，飛騨における政治，経済の中心としての機能を持たせた。

武家地は城郭東側から北側に広がる高台一帯，町人町はその高台の下に配された。この町人町が現在高山市街地を代表する観光地になっており，また一部は後述する重要伝統的建造物群保存地区として選定されている。城の北には，地形図にも記載のある照蓮寺を建立したが，その参道沿いや周囲には寺内町が発達した。加えて城の北東には武家の菩提寺を中心とした寺院が集められ，寺院群が形成された（以上，小林ほか 2007: 317; 高山市教育委員会 2017a: 1-2）。

1692（元禄５）年，金森氏六代の頼旨（よりとき）[18]に転封が命じられ[19]，1695（元禄８）年には高山城が武家屋敷も含め破却された（高山市教育委員会 2017a: 7）。転封後は幕府直轄地となり，幕府からは代官，後に郡代が赴任した。1695 年以来，代官や郡代は，かつて金森氏三代の重頼の娘３人が居住していた向屋敷（下屋敷）であり，現在高山を代表する名所となっている高山陣屋で政務を執った（高山市教育委員会 2017a: 10; 高山市教育委員会 2018a: 8）。主要建物は明治以降も，1969（昭和 44）年の飛騨県事務所移転まで地方官庁として使用され，1929 年には国の史跡に指定された（高山市教育委員会 2018a: 51-52）。

①高山市中心部を訪れる観光客が最も目当てにしているものは，やはり古い町並み景観だろう。良くある話だが，こうした町並みが残っているのは，高山の商業活動の中心地が上一・二・三町から駅前周辺へと移ったことが大きな要因の１つであると言われる（高山市教育委員会 2014a: 190）。高山市には重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）[20]として国のお墨付きを得た

16） いつから存在したかは定かではないが，金森長近築城以前は天神山城と呼ばれ，飛騨の守護である佐々木氏の一族高山氏が在城していたと伝わり，永正年間（1504-1521）には高山外記（げき）が在城していた。尚，室町時代から三木氏の飛騨統一まで，京都での争いとも絡み，飛騨では諸氏の勢力図が目まぐるしく変化していた（高山市教育委員会 2017a: 143）。

17） 1590（天正 18）年を築城開始年とする資料もある（高山市教育委員会 2017b: 227）。

18） 「旨」は「時」の古字（諸橋轍次著『大漢和辞典』による）。

19） 幕府が飛騨の山林資源や金銀山に着目したことが理由といわれる（高山市教育委員会 2017b: 327-328; 高山市教育委員会 2018a: 241）。

20） 伝統的建造物群保存地区は市町村が決定する。その中でも，国が市町村からの申し出を受け，

～ 40km の日本を代表する大きな山脈であり，鮮新世に当たる 250 ～ 300 万年前に形成された。南西部では，飛騨高原，高山盆地と下っていく。高山盆地は宮川や高原川及びそれらの支流に沿う谷底平野である。乗鞍岳一帯は，標高 2,400 m前後の美濃帯と呼ばれる地帯上に形成された成層火山群である（以上，町田（2006），町田･守屋（2006），山崎（2006）による）。

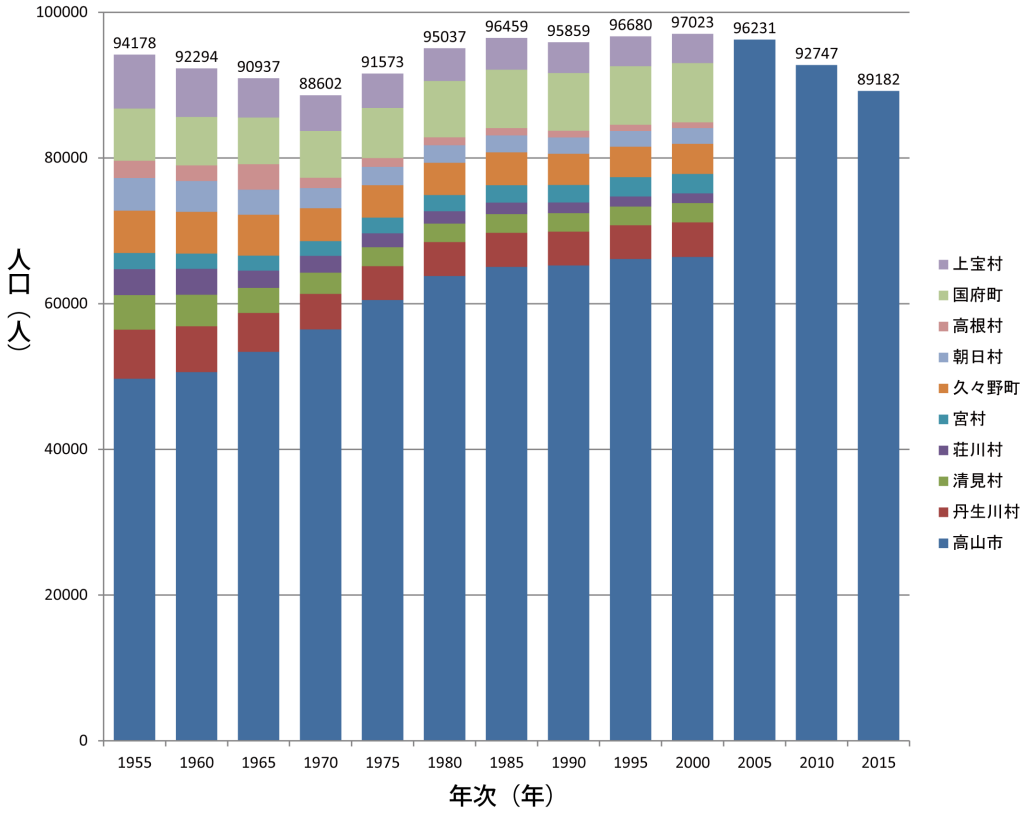

図 0-1　高山市における旧市町村別人口の変化.
（国勢調査より筆者作成）.

図 3-1　宮川朝市.
（午前 9 時 7 分頃撮影）.

図 3-2　宮川朝市で販売されている農産物.
（午前 9 時 42 分頃．許可を得て撮影）.

文献

荒井良雄・川口太郎・井上　孝編 2002.『日本の人口移動―ライフコースと地域性―』古今書院.
江崎雄治 2006.『首都圏人口の将来像―都心と郊外の人口地理学―』専修大学出版局.
伊藤達也 1984. 年齢構造の変化と家族制度からみた戦後の人口移動の推移. 人口問題研究 172: 24-38.
河田貞次郎 1934.『高山本線全通紀念写真帖』西濃印刷株式会社岐阜支店.
小林浩二・高木俊明・滝村一彦・西村三紀郎 2007. 飛騨. 藤田佳久・田林　明編『日本の地誌 7 中部圏』316-326. 朝倉書店.
小林浩二・馬淵旻修 2007. 中濃・南飛. 藤田佳久・田林　明編『日本の地誌 7 中部圏』298-308. 朝倉書店.
高山市教育委員会編 2014a.『高山市史編纂資料　第 3 号の 1　高山市史　建造物編 (上)』. 高山市教育委員会.
高山市教育委員会編 2014b.『高山市史編纂資料　第 3 号の 2　高山市史　建造物編 (下)』. 高山市教育委員会.
高山市教育委員会編 2015.『高山市史編纂資料　第 4 号の 1　高山市史　街道編 (上)』. 高山市教育委員会.
高山市教育委員会編 2017a.『高山市史編纂資料　第 6 号の 1　高山市史　金森氏領国時代編 (上)』. 高山市教育委員会.
高山市教育委員会編 2017b.『高山市史編纂資料　第 6 号の 2　高山市史　金森氏領国時代編 (下)』. 高山市教育委員会.
高山市教育委員会編 2018a.『高山市史編纂資料　第 7 号の 1　高山市史　幕府直轄地時代編 (上)』. 高山市教育委員会.
高山市教育委員会編 2018b.『高山市史編纂資料　第 7 号の 2　高山市史　幕府直轄地時代編 (下)』. 高山市教育委員会.
藤田佳久 2007a. 位置と領域. 藤田佳久・田林　明編『日本の地誌 7 中部圏』4-7. 朝倉書店.
藤田佳久 2007b. 地域的特徴. 藤田佳久・田林　明編『日本の地誌 7 中部圏』8-32. 朝倉書店.
町田　洋 2006. 飛騨山脈の地形―火山, 氷河, 激流が生み出した山なみ. 町田　洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄編『日本の地形 5 中部』169-177. 東京大学出版会.
町田　洋・守屋以智雄 2006. 飛騨山脈の中期更新世以降の火山. 町田　洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄編『日本の地形 5 中部』177-182. 東京大学出版会.
山崎晴雄 2006. 飛騨高原・高山盆地. 町田　洋・松田時彦・海津正倫・小泉武栄編『日本の地形 5 中部』182-187. 東京大学出版会.

裏表紙に記載されている名言は以下の文献による.

大嶽幸彦 2014. 地理へのいざない. 古今書院. (p.12)